

さぽせんニューズレター

2017 年
Vol.51



CONTENTS

- P. 2～3・・・もっと知りたいサポセンのこと！@2016年9月～2017年1月
「地域の居場所づくり交流会@茅ヶ崎」「ボランティア塾」
- P. 4・・・「ばりあふりーカフェ」
- P. 5・・・NPO 講座「インターネットを活用した NPO の情報発信」
- P. 6・・・平成 29 年度実施 協働推進事業／げんき基金補助事業
- P. 7・・・ちがさきサポセン☆ワイワイまつり、《連載》さぽちゃんが行く！
- P. 8・・・ちがさき市民活動サポートセンターからのお知らせ

もっと知りたい！サポセンのこと

『市民活動応援プログラム』～実施報告～

2016年9月～2017年1月

～しる はじめる つながる～

「地域の居場所づくり交流会@茅ヶ崎」



日時：10/21(金)13:30～16:30
場所：茅ヶ崎市役所本庁舎
4階会議室3
参加者：63名
講師：長田英史さん
(NPO 法人れんげ舎 代表理事)
<http://www.rengesha.com/>

<ゲストスピーカー>

- ・地域のお茶の間研究所「さろんどて」 早川仁美さん
- ・みんなのサロン「和」 萩原史江さん
- ・神奈川ゆいまーの会 古和田勝美さん
- ・市民自治推進課 大森光貴さん、池田早華子さん

子ども食堂やサロンなど、自分でも居場所作りに取組んでみたいと関心を寄せる人が増えてきました。そこで、市内で活動する地域のお茶の間研究所「さろんどて」に企画協力いただき、居場所とは何かについて学び、市民同士が情報交換する交流会を実施しました。

【第1部：講義～地域の居場所づくりの始め方～】

～本音で話し合っているいい関係を作る！～

講師の長田さんは茅ヶ崎生まれ。大学在学中から町田の市民活動に学生ボランティアとして参加。子どもの居場所づくりやカフェ「金魚玉珈琲」経営など幅広い活動を展開しながら「場づくり」の哲学とノウハウを発信し続けています。

はじめにお話があったのは「場」と「場所」の違いについて。「場」とは人のつながりを生み出す可能性が高い所、「場所」は家、公園など地図で示せる所。そして「居場所」は建物だけではなく、そこで働く人たちのいい人間関係だと強調されました。活動にひずみが起こるとそれが場を訪れる人に伝わり混乱を招く恐れがある。日頃から本音で話し合っているいい関係を作る事が大切です、と語句に願いを込められていました。



長田さんの著書「場づくりの教科書」

『他人を演じるのではなく、一人ひとりが自分自身として場に存在できる。』---ありのままの自分でいられる居場所や活動をこれから作りたい人に必携の書！会議の進め方など、組織運営にお悩みの方にもオススメ。

「場づくり」の3ステップ

ゼロから継続的に場を作り出していくための流れです。

1. 紙に書く→目的や内容、誰のためにやるかなど、ある程度まとまってきたら通信などを発行。
2. 単発イベント→まず期間限定でやってみてお客さんの反応を見てその後、続けるか決める。
3. 定例化→単発の場がきちんと出来るようになったら定期的にやってみる。いつでも行ける場所があるという安心感に繋がる。



居場所をつくる時、健全さを期待されがちだが、ひとつの場所で地域の問題を全部解決することは無理な話。多世代がつながる居場所づくりに少し異論があるというお話も。人それぞれ求めるものは違い、誰でも入れるような場所のかえって安心できないかもしれません。ご自身の豊富なエピソードを交え、プレイヤー目線からのお話は、説得力があり培ってきた信念の強さが伝わるものでした。

【第2部：トークセッション】～始め方・続けるコツ～

ゲストの3団体は「市民活動げんき基金補助制度」を活用して、高齢者と子育て世代の交流、高齢者サロン、子ども食堂、障がい者支援などの事業を実施しています。特に印象に残ったのは続けるコツについてのお話です。

- ・実は危機に陥ったことがある。そんな時はもう一度原点に戻り「なんのために始めたのか」を結論が出るまで徹底して話し合った。
- ・初めから無理をしないと決めて活動した。スタッフと利用者さん、みんなで協力してやってきた。
- ・資金は自己資金から補助金を活用することで乗り切れそう。まつりでの売上げの一部を活動資金にしている。

これに対し長田さんは、補助金は期間が決まっているので使い切るとなくなる。次年度の活動にどう繋げていくか考えることが大切。自分たちで資金を出し合って、期間を決めてやることもいいとアドバイスされました。

第2部では、市の地域自治担当者より、松林地区で立ち上げた居場所作り事業についての説明もありました。

地縁のつながりを活かした取組みで市民と専門性のある団体、双方の強みを活かせばとても大きな力になります。サポセンとして今後、市民活動団体と地域との接点を見いだせていけるといいと思います。

第3部【交流会】～グループ別に意見交換～

感想や思いなどの意見交換後、グループごとに発表しました。居場所づくりをしたいと思っているが手段が分からないといった意見が多くあり、長田さんからは「お金があったらやれるのか自問自答してみる、地域にたくさんの居場所があることがキーワード」とアドバイス頂きました。

参加者の中心層は50代の女性でしたが、市外の方々も含め大学生からシニア世代の方々まで、実りある交流会となりました。

これからもみなさんと一緒



に楽しむ気持ちで居場所づくりを応援して行ける、そんな風土づくりができたと思います。

参加者の声

- ・今までぼんやりとしたイメージしかなかった居場所づくりの具体的な方法、スタッフのあり方が学べてよかった。「やる気」をまた持つことができた。世代交流としての居場所を積極的にやっていかななくても、自分なりの守備範囲でやればよいとわかった。
- ・トークセッションでは、3団体の設立の動機や活動内容、継続力について分かりやすく、多くを学ばせていただいた。今後の活動に役立てたい。
- ・交流会ではお互いの気持ちを共有できた。他地区の方々、立場の異なる方々と情報交流できてよかった。

日 時：9/30(金)5～6校時

場 所：鶴嶺高校各教室

参加者：1年生 400名対象

ボランティア塾 in 鶴嶺高校

今年のテーマは「災害」と「平和」

ボランティア塾は、高校生の“知りたい”気持ちと、市民活動団体の“伝えたい”気持ちをつなぐ体験型授業です。

第一部は、1年生全員で受ける全体学習。講師3名《2013年度卒業生:菊池モアナさん(大学3年)、2015年度卒業生:大西彩水さん(大学1年)、宮城県南三陸町出身:小野寺翔さん(大学2年)》が、『高校生だからできること』について、体験を交えて心に響く話を語ってくれました。

菊池さんは高校1年の時に受けたボランティア塾をきっかけに、周囲の反対を説得し東北の被災地を訪れました。2年の夏には友人たちとともに再び現地へ。その後、後輩



の大西さんも南三陸を訪れ、支援・交流を続ける中で、現地の小野寺さんとは、ボランティアをする側・される側という立場ではない「遠方の友だち」になっていきました。小野寺さんは

被災当時中学2年生。津波にのまれた人に習ったばかりの心肺蘇生を施すなど、生死を分ける場面に何度も直面しました。先輩たちの“生”の話を、生徒たちは真剣に聞き入っていました。



第二部は、各教室で団体の授業。グループワークを体験したり、なぜその活動をしているのか、その人の生き方や考え方などを学ぶ時間となりました。

生徒の感想

- ・少しの勇気を出して頑張ることで、人の心の支えになることができるのだなと思った。
- ・いざという時に大切なのは先生の指示ではなく、自分で考えて行動に移すことだと改めて知った。
- ・今ある日常、それがどれだけ尊くはかないものなのか、改めて感じ考えさせられた。
- ・体験した世代から話を聞ける最後の世代として『戦争をしてはいけない』と伝え続けていきたい。

Team Aid for Japan～しょうなん茅ヶ崎災害ボランティア、学生リーダー塾 HILS、防災スイッチオン！プロジェクト、アートケアひろば、南三陸のかたりべ、ヒロシマを語る会、平和を考える茅ヶ崎市民の会実行委員会、NPO法人 ウェルフェアポート湘南、筆記通訳サークル「虹」、茅ヶ崎市聴覚障害者協会/茅ヶ崎市手話通訳者連絡会、茅ヶ崎・宮澤賢治の会、Hearts、NPO法人 発達サポートネット パオパブの樹、NPO法人 フラワーセラピー研究会、どんぐりさんの表現ワーク、サンチャイ ねばるば (参加16団体、順不同)

茅ヶ崎高校ボランティア同好会

毎月1回、同好会の校外活動として、1年生から3年生まで5名がサポセンでボランティアをしてくれています。8月までは主にユースボランティア、秋にはボランティア塾、その後はワイワイまつりと、サポセン事業に沿って、絵や工作、細かい事務作業など、それぞれの得意分野でお手伝いしてもらっています。ユースボランティアの

オリエンテーションでは、会場準備～受付～片付けまで大いに力を発揮してくれました。これからも「高校生のチカラ」に期待しています！





ばりあふりーカフェ

日 時：11月29日(火)18:00～20:00
場 所：茅ヶ崎市役所本庁舎 1階市民ふれあいプラザ
協 力：茅ヶ崎市障害福祉課
特定非営利活動法人 茅ヶ崎市障害者施設連絡会
参加者：59名

“街の中で普通に暮らす”

障がい…生まれた時から生きづらさを持っている場合も、事故や病気や年齢など人生の途中からの場合もあり、誰にでも起こりうるものかもしれません。障がいがあってもなくても、街の中で普通に暮らして普通に笑って、普通にワイワイおしゃべりして・・・。

誰もが自分らしくいられる街をこのひとときに感じることができたらと、4年ぶりに「ばりあふりーカフェ」を企画しました。



【出会って しゃべって つながりたい】 ～“ごちゃまぜカフェ”開催～

テーマは「日々思うこと」

大きなガラスにピカピカの床、新しい空間。

市民ふれあいプラザの平日の17時はまだ一般利用者の方の姿が何人か見られます。

障害者週間で開催されていた「ふれあい作品展」、この日は地域作業所連絡会の方が特別に時間を延長してカフェの終了まで開けてくださいました。

市民課との境のシャッターが下りるとそろそろ18時。「ばりあふりーカフェ」の始まりです。

司会は地域活動支援センター みらまーとサポセンで働く女性が担当。市長の挨拶に続き、参加者は丸テーブル8つに分かれてフリートークを楽しみました。

- ・好きな映画の話ー市川雷蔵のファン（若い方！）
- ・よく食べに行ったラーメン屋がなくなって残念
- ・福祉施設を出た人の現在を追うハートネット TV（NHK Eテレ）に出演した
- ・近所の中学生在が反抗期で困っている
- ・学童保育に時々たい焼きを配達するが、子どもにはクリーム味が人気
- ・友達がほしい・・・
- ・西郷隆盛に纏わる歴史の話
- ・リタイアしたので、ボランティアを模索中

など、とても和やかで温かい雰囲気の中、多方面にわたる本音トークで盛り上がり、時間が足りないテーブルがいくつもありました。

軽食タイムは、Café.COMの飲み物、社会福祉法人翔の会のご協力を頂いて、サンドイッチやおにぎり、加えて、みらまーのクッキーも。



会場の140インチモニターの大画面では、障がいのある方が生き生きと働く様子を紹介。最後は参加者(有志の方)にマイクを渡して一言ずつ、日ごろの活動や思うこと、カフェの感想など話していただきました。とぎれとぎれだったかもしれないけれど、自分の思いをしっかりと伝えた人。緊張してうまく話せなかった人。マイクの前に自分から進んで行って話した人。サポセンスタッフを合わせると60余名の前で、堂々と話したことは、それぞれの自信につながったかもしれません。

ボランティアさんと共にみんなで作るカフェ

2007年から数えて“ばりあふりーカフェ”は今回で9回目。いつからか生まれたやり方として「みんなで準備して、みんなで片付ける」。今回も、積極的にボランティアとして参加し準備を手伝ってくださる方がたくさんいました。テーブルや椅子を運ぶ、パーティションを移動する、看板や飾りつけなど、色々に工夫して、協力して会場を作り上げ、終了後も参加者みんなで後片付けを行いました。

いつも普通にごちゃまぜになれる街。悩んだ時、誰かと、話したい時「ぶらっ」と立ち寄れて「ニコニコ」して家路につく・・・そんな、家と職場ともう一つの居場所があったら・・・できたら、いいですね。

《アンケートより》

☆楽しかったです。(多数)

☆とても暖かい集まりでした。

☆とても良いお話を共にできる時間を過ごせたことを嬉しく思いました。

☆いろんな分野で活動している方々と一緒に気持ちがつながる時間が持てました。

2016 NPO 講座 あらためて情報発信を考える

～「インターネットを活用した NPO の情報発信」～



日 時：1/28(土)14:00～16:00
場 所：ちがさき市民活動
サポートセンター
参加者：30 名
講 師：山田泰久さん
(NPO 法人 CANPAN センター
代表理事)



「よい団体とは、よい活動とよい情報発信をしている団体である」

SNS の普及で誰もが発信できる時代になり、多すぎる情報の中で人々は自分の興味・関心のあることしか見ない傾向にあります。市民活動団体がよいことをしているというだけではなかなか注目されず、効果的な発信をしないと埋もれてしまう時代になってきました。自ら活動を可視化し、活動からうまれる価値を言語化し、理解してもらう必要があります。

発信内容 3つのポイント

1. 共感→団体の活動を知ってもらい、その必要性を理解してもらうこと、また活動にかかわる人に興味・関心を持ってもらうこと。共感ポイントは人によって違うのでターゲットに合わせて発信していくと効果的。
2. 信頼→団体が「あやしくない」ことを証明すること。そのために、基本情報他、活動成果や財務情報について、しっかり公開していることが重要になります。
3. 問題提起→知られていない地域や社会の状況や課題を伝え、それを変えるための提言を行う。メディアとしての役割が求められています。

「キーワード検索」で見つけてもらう

今、ネットで求められているのは「分野×地域で一番詳しい団体」。そのためには専門性のある情報発信に加え「茅ヶ崎」という言葉を必ず入れること。また、活動報告などをブログに掲載していくことでネット上に情報が蓄積され、キーワード検索されやすくなります。SNS で紹介されたときにクリックしてもらえるように面白いタイトルをつけることもテクニックの 1 つです。

発信力を高めるためのアイデア

- ・ブログは写真+文章(100～300 文字)のセットを 4～5 個、半年間継続して発信してみる。
(無料で広告がない CANPAN ブログがオススメ！)
- ・現場に近い人が原稿を作成し、広報担当が編集・アップする分業体制をつくることで継続させる。
- ・アップする情報のスケジュールを組み計画化する。
- ・サイトを訪問してくれた人にとって有益な情報(参考情報や他団体のイベントなど)を収集し発信する。
- ・地域で情報発信が上手な団体のマネをしてみる。等

参加者の感想

講義の途中には、参加者の方々が現在どのような情報発信をしているかワークショップも行いました。今回の参加者の 8 割が既に HP や facebook、ブログを開設している団体や個人の方。アンケートには、「情報発信のノウハウを基本から学ぶことができた。特に「受け手の立場になって」というポイントが再認識できた」「具体的で大変参考になった」「モチベーションを上げるきっかけになった」など、参加して良かったとの声がたくさん寄せられました。



「NPO のための IT 活用講座～効果が上がる情報発信術」
久米信行・山田泰久著
豊富な事例をもとに、セミナーでは伝えきれなかったことが本にまとめられています。こちらもご参照ください。

視察・研修受入／講師派遣

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 10/3 | セカンドライフセミナー「市民活動について」
@シルバー人材センター 9名 | 11/19 | セカンドライフセミナー「市民活動について」
@シルバー人材センター 5名 |
| 10/7 | 茅ヶ崎市新採用職員研修講座
「行政と NPO との協働」 21名 | 12/8 | ちがさき健康づくり講座 15名 |
| 10/29 | 60代からのさむかわデビュー①「地域活動を
知ろう！」@寒川町役場東分庁舎 20名 | 12/10 | 60代からのさむかわデビュー④
「自分の地域活動についてイメージしてみよう！」
@寒川町役場東分庁舎 24名 |

平成 29 年度実施 協働推進事業 実施候補団体が決定！

9月の「市民活動団体等と行政の協働に向けた意見交換会」、昨年12月の公開プレゼンテーション、市民活動推進委員会による評価・審議を経て、以下の12事業が内定しました。

◆1年目事業◆				
事業名	団体名	担当課名	総事業費(円)	
行政提案型 事業(2事業) 市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修 工事期間を活用したメモリアル事業	NPO 法人 3FCommunity Service	文化生涯学習課	716,000	
	特定非営利活動法人 ドットジェイピー	企画経営課	1,500,000	
市民提案型 事業(3事業)	ハマミナー魅力 UP 大作戦	文化生涯学習課 保健福祉課	2,750,000	
	防災への動画活用	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット	防災対策課	1,310,000
	中学生への学習支援事業－わかる喜びを、 生きる力に－	こども応援丸	学校教育指導課	1,096,000

◆2年目事業◆				
事業名	団体名	担当課名	総事業費(円)	
行政提案型 事業(4事業)	海岸利用におけるマナー啓発事業	サーフ 90 ライフセービングクラブ	環境保全課 農業水産課 公園緑地課	427,000
	柳島キャンプ場協働運営事業	NPO 法人 茅ヶ崎つなぐ海と森	公園緑地課	15,325,000
	ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座 の動画配信及び事業 PR	NPO 法人湘南スタイル	社会教育課	3,344,000
	落書き防止、抑制のためのペイント事業	NPO 法人湘南スタイル	広域事業政策課	1,832,000
市民提案型 事業(3事業)	《子育て世代のための生涯学習交流 サロン》の運営事業	ママ 04	文化生涯学習課	672,000
	美術「みるっこ」プログラム	NPO 法人赤ちゃんからの アートフレンドシップ協会	文化生涯学習課	1,180,000
	これから働きたいママのための起業・就業 支援	うみのあお、そらのあお	男女共同参画課 雇用労働課	1,444,000

平成 29 年度実施 市民活動げんき基金補助事業

3/20 公開プレゼンテーション(ヒアリング)

市民活動げんき基金補助制度は、市民の自主的で公益的な市民活動を財政的に支援する制度です。皆さんからの寄付金と同額を市も一緒に積み立て(マッチングギフト)、基金の原資にしています。

サポセンでは、市民自治推進課と協働で「伝わる！企画書作成会」を3回実施。制度についての説明や、事業の組み立て方、申請書類(事業計画書や収支予算書)の書き方、公開プレゼンテーションの進め方など、過去の採択事例も参考に、申請したい内容に沿ってアドバイスをを行いました。個別相談も合わせると20団体が参加。これを機に新たに立ち上げた団体も数多くあり、茅ヶ崎をもっと元気にしたい！という意欲の高さを感じました。

今回応募した15団体の公開プレゼンテーション(スタート支援は公開ヒアリング)は3月20日(月・祝)の予定です。

選考の視点は「公益性」「発展性」「費用の妥当性」。ステップアップ支援は、これらに加え、「地域性」「先駆性」「事業実現性」「自立性」「継続性」が評価項目となります。

開催場所・時間は茅ヶ崎市 HP にてご確認ください。どなたでも傍聴できますので、応募団体を応援したい、または来年度に向けて参考にしたい団体は、ぜひご参加ください！



ちがさきサポセン☆ワイワイまつり 2/26(日)開催！【2会場で開催】



ワイワイ楽しむ、春のまつり新定番！

★メイン会場：中央公園(10:00～15:30)

★サブ会場：ちがさき市民活動サポートセンター(10:30～15:00)

約70の団体が参加・協力する、いろいろ楽しめる市民活動のおまつりです。「買う・食べる」「観る・聴く・歌う」「つくる・遊ぶ・学ぶ・ふれあう」豊富なプログラムを用意して、たくさんの方のお越しをお待ちしています。

★県内のNPOを応援するゆるキャラ「かじゃお」も登場予定！お楽しみに！！

「かじゃお」プロフィール：神奈川県 県民局 NPO 協働推進課所属。

仕事はNPOの活動や企業の社会貢献活動など、神奈川県内の「いいこと」をねこなりに見つけ、ねこなりに結びつけ、ねこなりに発信する「いいにゃクリエイター」(非常勤相談役)。

<同時開催>子ども向け防災プログラム「イザ！カエルキャラバン！」

家族や友だちと楽しみながら防災の知恵や技が学べる新しいカタチの「防災のまつり」。

使わなくなったおもちゃの「かえっこ」もあります♪



<運営ボランティア大募集！>

外からだけでは味わえない、まつりの楽しさを体感しませんか？詳細は、サポセン窓口またはHPにて。

<茅ヶ崎市広報番組 「はまかぜ ちがさき」にも出演>

2/22(水)10:30からの放送にサポセンスタッフが出演し、ちがさきサポセン☆ワイワイまつりのPRをします。ラジオチャンネルは、FM83.1 レディオ湘南へ！！



茅ヶ崎で活躍中の団体を追っかけレポート！！

さぽちゃんが行く！

がんばれ
学生さん！

文教ボランティアズ

文教大学国際学部国際ボランティア委員会の指導の下、活動しているボランティア団体です。イベントの企画や運営まで学生たちが行っています。(構成人数10名)

Bunkyo
Volunteers

団体の歴史～支援のありかた(海外から国内へ)

以前はアメリカやウガンダ、コンゴ共和国での現地ボランティアなど、国外で幅広く活動していました。

しかし2011年3月11日の東日本大震災が団体にとっての大きな分岐点となり、以降は東北支援へと大きく活動を広げていきました。震災当時から支援している宮城県石巻市大川地区での活動は、6年前のがれき撤去の支援から形は変わり、今は夏祭りのお手伝いや地域の子どもを支援する復興支援チーム“リオグランデ”のイベントにも参加をしています。

挑戦していく団体

2016年度も東北(宮城県石巻市)への訪問や^{しゅうたさい}聳塔祭(文教大・学園祭)での東北物品の販売を通して支援活動を実施しました。昨年4月に発生した熊本地震の際には、微力ながら、自分たちにも何かできることがないかと考え、朝や休み時間を利用し、学内で募金活動への協力を呼びかけました。

他には、世界の教育の現状を世界中で同じ時期に学び、教育の大切さを考えるイベント＝「世界一大きな授業」の開催、学内外のボランティアサークルや団体を集めて、

ボランティアを始めてみたい人の一歩を応援し、多くのつながりをつくっていく交流会、風化していく3・11をもう一度考え直すための復興ボランティアワークショップなども行ってきました。ボランティアのカタチを一つの型にはめず、様々なことに目を向け挑戦しています。

温故知新

代表の高橋さんは「団体が現在まで活動し続けてこられたのは、先輩やサポートして下さる方々が積み重ねてきた努力と信頼のおかげ。これからも、根底にある『社会をより良くしたい』という想いをもち、様々な変化にも臨機応変に対応し活動していきたい。また、学生ならではの視点を持ち、私たちの自由なカタチのボランティアに共感していただける地域の方々ともつながりを構築し活動の幅を広げていきたい。」と熱く語ってくれました。



OTHER NEWS

「茅ヶ崎市内のレンタルスペース」サポセン HP にアップしました！



団体主催のイベント・講座などに利用できる市内のレンタルスペース 14カ所を紹介。サポセン窓口で配布の他、HPでもチェック可能です。(サポセン HP 内のレンタルスペースで検索)

スタンプラリー設置施設です！



どんなスタンプはかは、窓口で。
～お楽しみに♪～

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館企画展 2016/2017 丸ごと 101 - 茅ヶ崎を知る 101 の機会 - 展のスタンプラリーの設置施設です。スタンプ押印をご希望の方は窓口まで。(3/5 まで)

レンタルロッカー 利用団体の募集！



現在、大型 1 個、小型 7 個のロッカーが利用可能です。団体資料や物品保管に利用いただけます。使用期間は 1 ヶ月～最長 1 年(毎年 4 月に契約更新)。料金は、大型 410 円/月、小型 200 円/月。

げんき基金への寄付つき 自動販売機 2 基の紹介



自動販売機の売上の一部をげんき基金へ寄付し、市内の市民活動の発展に役立てる仕組みです。ぜひご利用ください。設置場所：茅ヶ崎市体育館(ヤクルト)、小和田公民館(ダイドードリンク)

第 13 回よるカフェ団体企画 2017.3.11(土) 開催！



よる=夜～寄る～縁る～出会い、
つながり、生まれる…はじまりの
きっかけは、よるカフェ。

「震度 7

その時 何が生死を分けたのか？」(仮)

今日かもしれない

～最新映像・データで学ぶ、知る、考える～

- ・日 時：3月11日(土) 14:00～16:00
- ・場 所：ちがさき市民活動サポートセンター
- ・内 容：大切な命を守り生き抜くために、何ができるか、どうアクションすれば良いのか、意見交換を通じて考えます。
- ・講 師：内野 義生氏
(防災スイッチオン！プロジェクト代表)
- ・参加費：500 円(資料、飲み物代)
- ・定 員：30 名(申込制)
- ・申込先：ちがさき市民活動サポートセンター
メール s-center@pluto.plala.or.jp
電話/FAX 0467-88-7546
- ・問合せ先：ちがさき市民活動サポートセンター
または内野氏(090-1851-5406)

ABOUT US

▶ちがさき市民活動サポートセンターとは

市民活動団体や NPO、ボランティアなど、
非営利で公益的な活動をしている人たちが
これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。



▶開館時間 9:30～21:30

▶休館日 毎月第 3 水曜日、年末年始(12/28～1/3)

▶アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩 10 分程度
駐車場 14 台 障がい者用駐車場 1 台
駐輪場あり

▶連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7
TEL/FAX: 0467-88-7546
Eメール: s-center@pluto.plala.or.jp
ホームページ: <http://sapocen.net/>

▶指定管理者 認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき
(2016 年 9 月 21 日付で神奈川県より認定を受けました)
(指定管理期間: 2013 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

